

System

キャリアデザインを体系的に学ぶ

キャリアデザイン学部の専門教育は、人のキャリアが築かれる様々な環境に対応した3つのフィールド、すなわち〈発達・教育キャリア〉〈ビジネスキャリア〉〈ライフキャリア〉の3領域から成り立っています。身近な個人レベルの問題から、より幅広い社会レベルの課題まで、複合的な視野でそれぞれの領域を系統的に学んでいくことにより、キャリアデザインに関する高い専門性を身につけます。

Domain 発達・教育キャリア領域

「生涯学習社会」
におけるキャリア形成を学ぶ

個々がよりよいキャリアを築くための人の育て方、活かし方を人間の発達と生涯学習の観点から学びます。子どもや青年を対象とした「発達と学習」、学校や生涯学習機関などに焦点をあてた「学校教育と地域学習」、教育史や政策などを学ぶ「教育と社会」の3レベルの科目群で構成されています。

Domain ビジネスキャリア領域

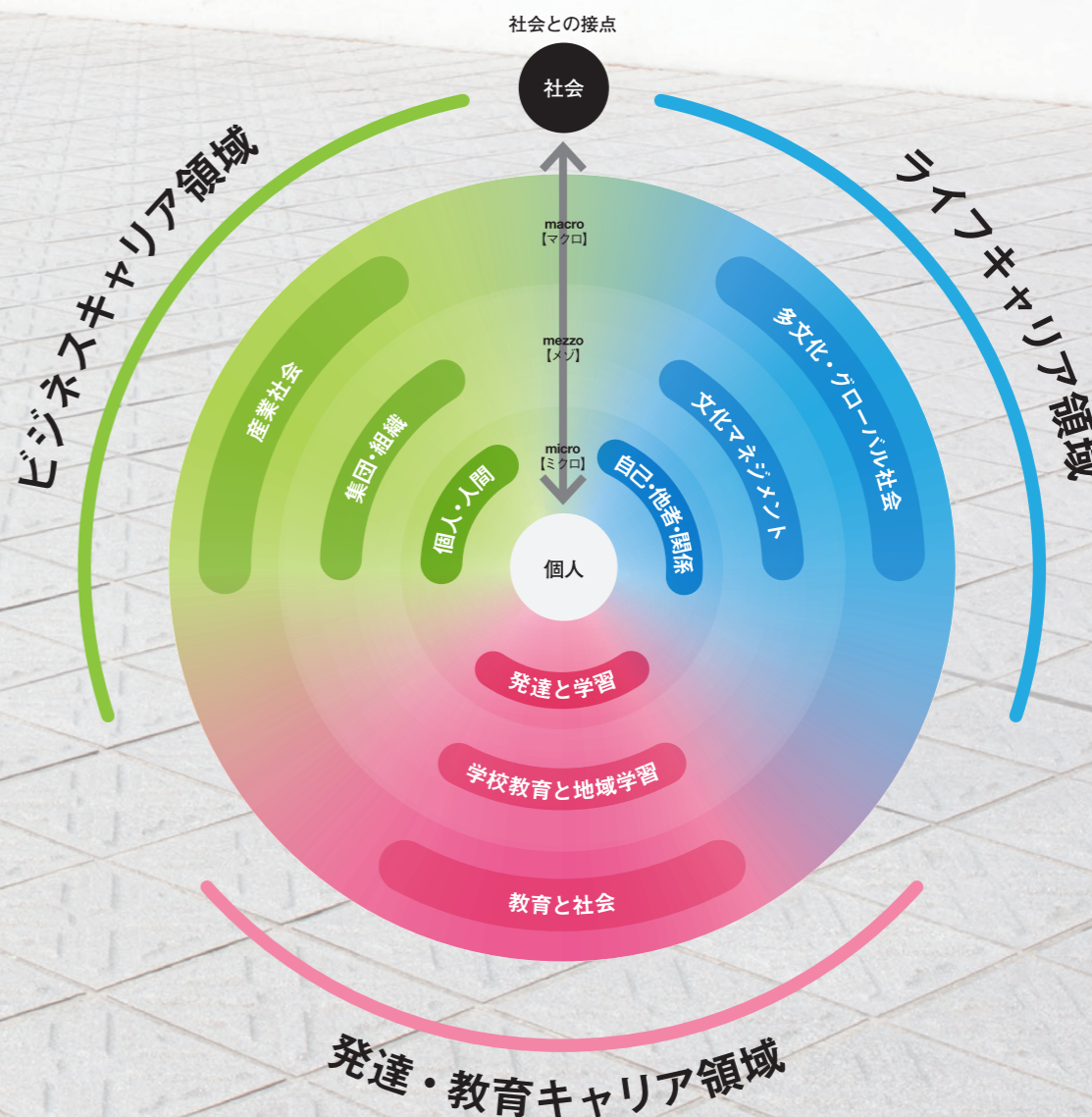
「産業社会」
におけるキャリア形成を学ぶ

キャリアの多様性が進む中で個人とそれを取り巻く組織・社会について学びます。個のキャリアに焦点をあてた「個人・人間」、個と企業組織との適合を考える「集団・組織」、産業社会の側面から個のキャリアを見つめる「産業社会」の3レベルの科目群で構成されています。

Domain ライフキャリア領域

「生活の場」
におけるキャリア形成を学ぶ

家族や地域コミュニティについて学びます。自己と他者、家族間の関係性を考える「自己・他者・関係」、地域コミュニティの創造・運営スキルを学ぶ「文化マネジメント」、多様な文化を理解する「多文化・グローバル社会」の3レベルの科目群で構成されています。



これら3領域から自らの専門を選び、
究めていく中で、自分自身のキャリアを
自律的・主体的にデザインする力を身につけます。

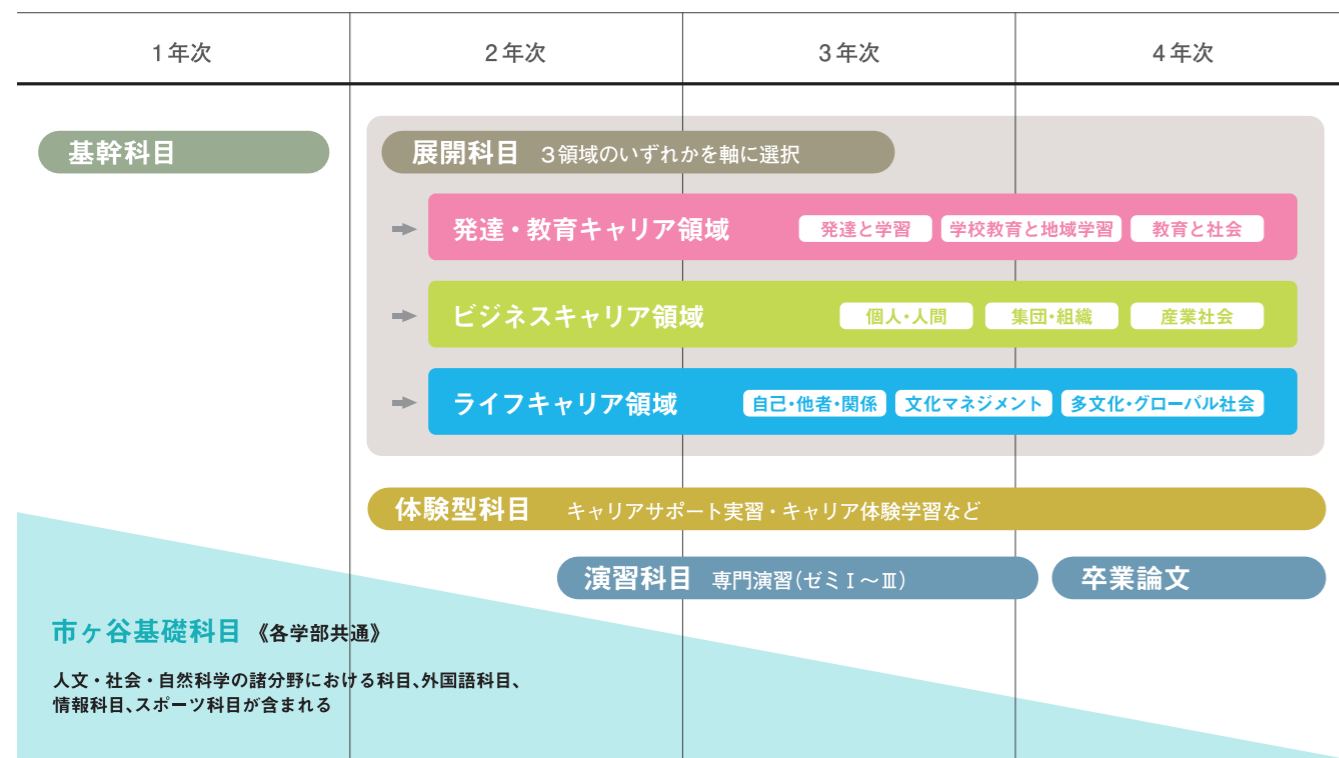
さらに他者のキャリア形成をさまざまなかたちで
支援する力を育て、「人の専門家」を目指します。



Curriculum

カリキュラムの全体像

1年次にキャリアデザインの基礎を学び、2年次から3つの領域に沿って専門性を高めていきます。
講義型の科目に加え、インターンシップやフィールドワークなど実社会での実習を重視した体験型科目を通じて、実践的なキャリアデザインのスキルを身につけます。



Curriculum for Freshers

新入生のための基礎科目群

キャリアデザイン学部に入学した学生は、「市ヶ谷基礎科目」という、市ヶ谷キャンパスの各学部共通の科目とともに、1年次からキャリアデザイン学部の専門的な科目(基幹科目)を学び始めます。
語学やレポートの書き方など基本的なリテラシーを養うとともに、多様な基幹科目によってキャリアデザインの理解に必要な理論や考え方、調査・研究のための基礎的手法を学びます。

Curriculum

基礎ゼミ

1年生は全員、「基礎ゼミ」という20名程度の少人数クラスの授業を履修し、大学での学びの基本的姿勢とリテラシーを身につける。文献や各種データの調べ方、論理的な思考方法、アカデミックなレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションのスキルなどを学ぶ。すべてのクラスを専任教員が担当する。

Curriculum

基幹科目

※以下にいくつかの科目をご紹介します

■ キャリアデザイン学入門

キャリアデザイン学を構成する学問領域の基本的な概念や考え方、歴史や理論の展開、政策や支援の方法などについて学ぶとともに、現代社会におけるキャリアとキャリアデザインのあり方についても考察する。

■ キャリア研究調査法

人のキャリアに関わるさまざまな課題について研究するための基礎的手法として、質的調査(観察やインタビュー)および量的調査(アンケートやデータ分析)のスキルを少人数クラスで習得する。

■ 発達・教育キャリア入門A～D

人間発達、学校教育、および生涯学習社会に関する基本的な概念や理論を学ぶとともに、学習支援やキャリア発達支援に関する臨牀的・実践的な基礎能力とスキルを身につける。2年次以降の(発達・教育キャリア領域)における専門学習のための土台を作る。

■ ライフキャリア入門A～D

家族やコミュニティをめぐる基礎的な概念や理論、課題や政策などについて、コミュニティ論、文化創造論、現代家族論、まちづくり文化論の4つの視点からアプローチする。2年次以降の(ライフキャリア領域)における専門学習のための土台を作る。

■ ファシリテーション論

グループや組織を活性化し、集団による学習や合意形成、問題解決などを促進するためのファシリテーションの手法を、実習を交えながら身につける。

■ ライフサイクルとビジネスキャリア

人生の軌道や周期＝ライフサイクルに学問的にアプローチし、人生の流れやパターンの時代的な変化や個人における多様性について理解を深める。

■ 職業選択論Ⅰ

学校から職業への移行期という、個人のキャリア形成のうえで大きな節目となる時期に注目し、職業選択、職業適性、就職活動、初期キャリアといった観点から分析する。

■ キャリアと法

雇用形態や働き方が多様化している現在、雇用に関わる法律や社会保障など、自立した職業人となるために必要な社会的諸制度について学ぶ。

→ Points

Point !

豊富な語学教育の機会

市ヶ谷基礎科目で学べる語学のチョイスが広がりました。英語(習熟度別)と諸語(中国・朝鮮・ドイツ・フランス・ロシア・スペイン語)のうちから2言語を選び、少人数クラスで履修します。さらに専門科目でも「外書講読」の授業を通じて英語でキャリアデザインを学ぶことができるほか、関連科目の「国際コミュニケーション語学」で、英語と中国語のコミュニケーションスキルを高めることもできます。

Point !

多彩な生き方に触れる

世の人々の多彩な生き方に触れる「キャリアモデル・ケーススタディ」は学生に人気の授業で、1年次から受講できます。さまざまな技を武器に、あるいは新しい分野を開拓しながら、自らの力でその道を拓いているゲストを迎え、その方々の生きざまや仕事経験を学び、自分のモデルとしていく機会と方法を提供します。

→ Points

Point !

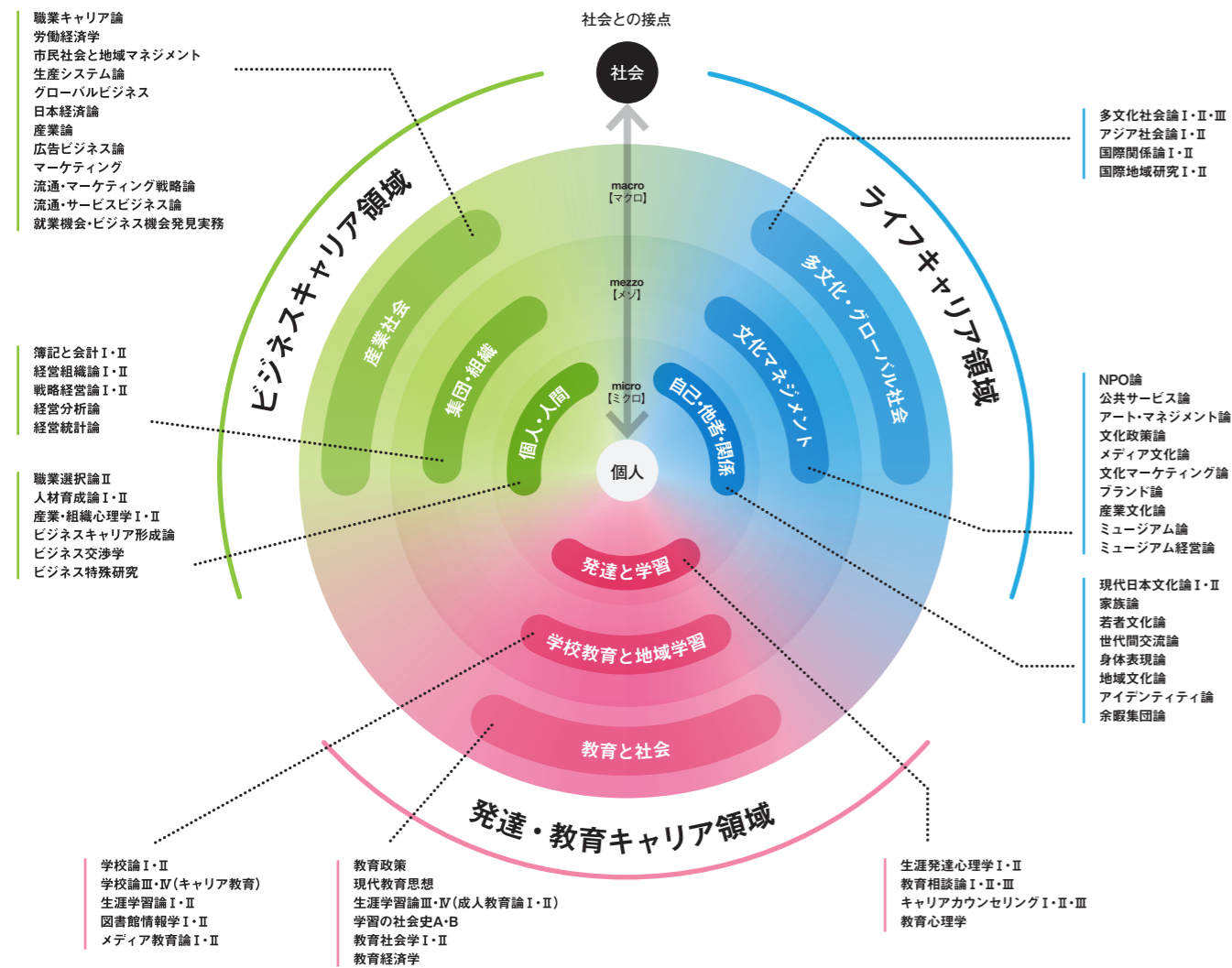
まずは学部に入門する！ 充実したオリエンテーション

新入生向けに充実したオリエンテーションが行われます。この学部の雰囲気に慣れ、学習の目的、内容や諸制度を知る機会となります。また、教員や先輩、これからともに学ぶ仲間たちと親しくなり、学部生活にスムーズに入っていく環境を作ります。

Curriculum

専門を深める科目群(2年次～)

2～4年次にかけて、3領域のいずれかを軸に選択し、専門的な知識やスキルを高めます。
もちろん複数の領域を学ぶことで、より多角的な視点を養うことも可能です。
またこれと並行して関連科目を履修することで、教員免許などの資格取得、
外国語のコミュニケーションスキル・アップもできます。



外書講読A・B(発達・教育キャリア)
外書講読A・B(ビジネスキャリア)
外書講読A・B(ライフキャリア)

関連科目
国際コミュニケーション語学(英語I～V)
国際コミュニケーション語学(中国語I・II)
日本語教育概論
多文化社会における日本語教育A～E など

※科目名は変更になることがあります

3つの領域それぞれにおける主な講義科目を紹介します。

Domain

発達・教育キャリア領域

《発達と学習》

■ 生涯発達心理学 I・II

人の生涯にわたる発達・成長過程を理解する。時期に応じて家族・学校・地域、企業や社会施設等、発達環境の影響を考える。

■ 教育相談論 I～III

問題や困難を抱えた個人への臨床的なカウンセリング、学習・進路相談などのキャリアカウンセリングについて実践的に学ぶ。

《学校教育と地域学習》

■ 生涯学習論 I・II

人の成長プロセスにおける学習課題を把握し、人生の各時期における生涯学習や社会教育活動の意義や課題について考える。

■ 学校論 I～IV

キャリア教育を含む学校教育について、その意義や必要性を理解し、さらに政策分析や学校現場の取り組み事例を検討する。

《教育と社会》

■ 学習の社会史 A・B

西洋と日本における学習活動や教育制度の生成・発展のプロセスを、社会における学習・教育の位置づけから理解する。

■ 生涯学習論 III・IV

地域や勤労の場をはじめ、さまざまな場面で展開される生涯学習の多様性とその意義を理解し、これからの可能性を考える。

《外書講読 A・B》

3領域のそれぞれにおいて主に英語の文献資料を読むことで読解力を高め、各領域に関する最新のグローバルな情報に触れる。

Domain

ビジネスキャリア領域

《個人・人間》

■ 人材育成論 I・II

人が組織のなかで職業能力開発を行うことの意義や方法、課題について企業組織の側と働く側の双方の視点から考察する。

■ 産業・組織心理学 I・II

組織のなかでの人間の行動や感情について科学的に探究し、組織で働く自己や他者の理解に役立てる。

《集団・組織》

■ 経営組織論 I・II

事業経営に関して戦略的な視点から考察する。企業における戦略の形成・展開・実行のプロセスを事例に即して学ぶ。

■ 簿記と会計 I・II

企業で求められる基本的な簿記である、財務諸表(貸借対照表や損益計算書等)の初歩的な利用・分析方法について理解する。

《産業社会》

■ グローバルビジネス

企業活動の世界的な展開について、経営環境の変化、マーケティングやブランド戦略、研究開発と知財経営等の観点から学ぶ。

■ 市民社会と地域マネジメント

自律・自立した市民からなるコミュニティのあり方と市民の手によるその運営の重要性について、欧米等の事例から考える。

Domain

ライフキャリア領域

《自己・他者・関係》

■ 家族論

現代社会における家族の変化や課題について具体的な事例やデータに基づいて学び、今後の家族のゆくえを探る。

■ 若者文化論

若年層が発信・享受の主体である種々の文化現象について、その背景にある現代社会の特質をふまえて分析する。

《文化マネジメント》

■ 文化政策論

行政や企業、NPO等による文化支援やそれによる地域振興、文化産業の発展と課題等、現代社会と文化の関わりを考える。

■ 文化マーケティング論

文化的な資源を産業や生活に活かしていくうえでのマーケティングのあり方について、具体的な事例を手がかりに考察する。

《多文化・グローバル社会》

■ 多文化社会論 I～III

多様な文化が混在する今日の社会で、互いに異なる文化に属する人々が共生してゆく方途について具体的に検討する。

■ 国際関係論 I・II

国際社会における政治と経済のしくみ、それに関わる人の営みについて探求し、グローバルな視野を形成する。